

軍事化と巨大企業の支配が進む科学・技術

いま、科学や技術は大きな危機にさらされている。戦争への道を突き進む政府や、世界の経済を支配する巨大多国籍企業によって、研究や開発の内部にまでその影響が及び、研究や学問の自由は奪われようとしている。いま、そのことが市民にも影響が及びつつある。

科学者の世界では、日本学術会議がかつての戦争協力への反省と、再び同様の事態が生じることへの懸念から、1950年、1967年に相次いで「軍事目的のための科学研究を行わない」声明を発表した。今日、軍事研究の波が押し寄せてきたことから、今年3月24日、改めて軍事的安全保障研究に関する声明を発表した。軍事研究を前に、科学や技術はどうあるべきかが再び問われたのである。

他方、大企業の支配が進み、科学や技術の現場では原子力村に象徴される御用化が進行し、独立した研究・開発が脅かされている。原子力だけでなく、遺伝子操作などあらゆる分野で御用学者が“村”を形成し、わずかの批判も許さない態勢になっている。そのことが私たちの暮らしに重大な影響をもたらしつつある。研究や開発の在り方、科学や技術のあり方が、大きな岐路に差し掛かっているといえる。このテーマを皆さんと一緒に考えたい。

日時 2017年5月27日（土）13時開場 13時15分開演
16時30分終了

講師 浜田 盛久氏（海洋研究開発機構・研究員）

「今こそ、科学は平和のために」

天笠 啓祐氏（ジャーナリスト）

「多国籍企業に支配される科学・技術・食」

場所 アートフォーラムあざみ野共同参画センター横浜北
セミナールーム1

（田園都市線、市営地下鉄あざみ野駅 徒歩5分）

資料代 500円

主催 軍学共同反対連絡会川崎

共催 軍学共同反対連絡会

問い合わせ 神野玲子 携帯 090-2669-0413

e-mail jreikochan@yahoo.co.jp

